

港の概要 (沿革)

敦賀港は、日本における天然の良港であり、古くから我が国とアジア大陸を結ぶ貿易拠点として、また、江戸中期以降は北前貿易の中継基地として栄えてきた。こうした歴史を踏まえ、明治32年に勅令により開港場に指定され、同35年にはウラジオストクとの間に定期航路が開設された。また、同40年には第1種重要港湾の指定を受けたことにより、敦賀港は、軍事、経済、文化交流の拠点としてますます重要性を高め、同45年からは敦賀からウラジオストクまでの航路に接続するための新橋駅と金ヶ崎駅(現、敦賀駅)を直道で結ぶ敦賀国際連絡列車が運転されるなど、交通の要路として位置づけられ、黄金時代を築くに至りました。第2次世界大戦後は、国際情勢の変化により対岸諸国との貿易が途絶したことから、港勢は不振を極めるようになりましたが、昭和26年の重要港湾および外国人入国埠頭の指定を契機に、再び地域に立地する鉱工業の主要原材料となる鉱産品、林産品等の輸入基地として栄えてきました。昭和45年には北海道小樽港との間(現在は否小敦港との間)に定期フェリーが就航し、京阪神・中京地区と北海道を結ぶフェリー基地として発展しました。平成22年には外資コナチナ貨物の取扱が開始され、平成14年には北海道否小敦港との間にRORO船定期航路が就航し、更に平成22年には韓国釜山港と結ぶ国際RORO船定期航路が就航し、また平成31年4月には博多港との間に新たなRORO船定期航路が就航するなど、環日本海時代に対応した流通港・物流拠点として重要な役割を担っています。近年敦賀港において、生産機能の拡充、物流機能の高度化に加え、国際交流機能、情報集積機能の拡充など、背後地域の発展に先導的役割を果たすことが要請されるとともに、石炭火力等のエネルギー基地としての一層の発展や、地域住民が港や海に親しめる賑わい空間の創出、安全かつ健全な海洋性レクリエーション活動の確保など、多様な要請が寄せられています。このような情勢の中で、新港地区において貨物のコンテナ化や船能の大型化に対応した公共設備等の整備を進める一方、本港地区でも公共設備や、再開発として港湾緑地を整備し、さらに、両地区を結ぶ圏域トンネルも整備しました。平成22年10月には、新港地区に整備を進めてきた圏域国際物流ターミナルが完成し、本格供用を開始しました。さらに、平成28年3月から、近年の貨物の増加による圏域トンネルの不足を解消するため、圏山国際物流ターミナルの拡張に着手し、平成29年4月には圏山南岸延伸整備が直轄事業として採択されました。引き続き、敦賀港の機能強化に向け着実に整備を進めていきます。

PORT OF TSURUGA 2022 敦賀港



福井県嶺南振興局敦賀港湾事務所



敦賀港紹介動画(通常バージョン) https://youtu.be/vYhw85Fwxll 敦賀港紹介動画(ショートバージョン) https://youtu.be/iseJUrKrkBA



コンテナ取扱貨物量年次推移表

Table with columns for year, foreign trade, domestic trade, and total volume.

RORO 出入貨物年次推移表

Table showing RORO cargo volume trends from 2017 to 2023.

入港船舶の船種別年次表

Table showing annual arrival ship statistics by type.

海上出入貨物年次推移表

Table showing annual sea cargo volume trends.

フェリーボート利用状況年次推移表

Table showing annual ferry and boat usage statistics.

敦賀港港湾関係団体一覧表

Table listing various port-related organizations and their contact information.



Port of Tsuruga 港湾施設

泊地, 航路標識, 港湾施設提供用移動施設, 曳船, 給油給水施設, 外かく施設

留置施設, 物揚場, 荷さばき施設, 保管施設, 野積場, 倉庫, 野積場, 貯木場

臨港交通施設

料金一覧表 (令和4年4月現在)

Comprehensive fee schedule table for port services, including berthing, storage, and cargo handling.

敦賀港施設図

